

日本の史跡整備における中世城郭の特徴の表現に関する研究

A study on the presentation of the medieval fort in the context of the enhancement of the Japanese historic sites

伊藤 大祐
ITO DAISUKE

1. 序論

近年、文化庁では史跡をはじめ文化財の「活用」を推進している。文化庁は、史跡整備についての考え方や手順をまとめた『史跡等整備のてびき（以下、『てびき』）』¹⁾の中で「活用」を、活用①：一般来訪者の史跡等への理解を助けるための施策（価値の伝達）、活用②：史跡等を学習し、憩い、その他の効用を発揮させるための各種施策（その他の効用）の2種類の性格を持つものとして捉えている。

一方で、史跡の「活用」に関する研究は、史跡の活用における情報の受け手側、つまり来訪者の視点である「活用①」に関する研究が進められてきた。また、史跡でも中世城郭の活用に関する研究は、地域振興及びまちづくりによる活用の事例紹介に関するものが主であり「活用②」を中心に論じられてきた。中世城郭は、土塁や堀のように遺構が地上に遺存しており、研究者や城に関する有識者は遺構から城の機能を認識することができるが、一般来訪者は遺構だけで機能を認識することは難しい。本研究では「活用①」に関して如何なる整備方法が、来訪者の中世城郭の特徴や本質的価値の容易な理解に繋がるか検証し考察することを目的とする。

2. 検討の観点と研究方法

（1）中世城郭の構造および機能

最初に中世城郭の特徴や本質的価値について把握するため、城郭の構造や機能に關係する諸要素を整理した。築城は、城の地理上の位置を決める地選、地形上の位置を確定する地取、縄張りを決める経始、土木工事の普請、建築工事の作事という工程で行われる²⁾。また、縄張りは、A 障碍の要素、B 導入系の要素、C 火力発揮の要素、D 空間構成（居住）の要素の4つの要素から構成される³⁾。

（2）『てびき』からみた検討の観点

『てびき』では示されている整備技術のうち、遺跡空間の表現（地形復元、空間の利用形態の表現）、遺構の表現（遺構展示、表示）、解説・展示（説明版）、ガイダンス施設、園路が一般来訪者の理解と關係すると考えられる。先述した中世城郭の構造や機能を理解するためにはさらに、①地理的条件の地選と地取②縄張りの指向性③縄張りを構成する各要素の相互關係の3点が必要と考えられる。

（3）検討対象地と研究方法

研究対象地は国指定史跡における中世城郭の割合が高い関東地方、かつ「活用」の施策として建設されたガイダンス施設が併設されている飛山城跡、金

山城跡、鉢形城跡、八王子城跡を選定し、それぞれの城跡の整備状況を把握した。研究方法は各城跡の保存活用計画や整備計画などの文献調査、現地調査によった。

3. 各城の「遺跡空間の表現」及び「遺構の表現」における整備状況

（1）各城における「遺跡空間の表現」

地形復元は「地取」を理解するうえで重要であり、堀や土塁の復元が含まれる。調査の結果、金山城跡と八王子城跡では地形復元が行われていると判断されたものの、飛山城跡と鉢形城跡では認定することは困難だった。特に、堀は安全管理上の問題から往時の深さでの表現がされていなかった。

次に、空間の利用形態の表現については、虎口空間は八王子城以外の城郭で表現されていた。八王子城跡では、本来折橋であった橋梁が直線に架橋され、虎口空間全体が不明瞭となっていた。なお、生活空間（居住）については、全ての城跡で表現されていた。

（2）各城における「遺構の表現」

遺構の表現に関して縄張りの4要素に分類して整理した。その結果、B 導入系の要素とD 空間構成（居住）の要素はそれぞれの城郭で遺構の表現がされていた一方で、A 障碍の要素とC 火力発揮の要素は表現に精粗がみられた。このことから、現在の遺構の表現は縄張りの諸要素の相互關係の表示は不十分な状況であることが示唆された。

4. 解説・展示とガイダンス施設における情報提供

城郭内に設置された説明板は、主な情報提供の内容として「調査・研究」が「整備内容」と関連させて示されていた。また、地理的条件の「地取」に関しては、全ての城郭で記載があった一方で、縄張りの諸要素を有機的に関連付けて示していた説明板は全83枚中8枚と全体の1割程度にとどまっていた。

次いで、ガイダンス施設の解説パネルでは、大名や城主に関する情報など「歴史的背景・事象」中心の情報提供が行われ、地理的条件や縄張りの諸要素の解説がほとんどないことが判明した（表1）。

表1 ガイダンス施設の解説パネルの分析結果

遺跡名	歴史的背景・事象	伝承	地理的条件		諸要素				調査・研究	整備内容
			地選	地取	A	B	C	D		
金山城跡	23	6	0	1	2	1	0	0	5	0
飛山城跡	8	4	0	1	0	0	0	0	3	0
八王子城跡	5	2	0	0	0	0	0	0	2	0
鉢形城跡	14	1	2	0	2	1	1	0	2	0

5. 各城の「園路」の整備

中世城郭の構造や機能を理解するための3つの観点
が園路を辿ることによって理解されるかを確認した。その結果、「地選」は、鉢形城跡の笹曲輪に配置された地形模型鉢以外では、いずれの城跡でも理解することが出来なかった。「地取」は、山城という特徴がある八王子城跡において確認できた。登山道の起伏が障碍そのものであるためと考えられる。一方で、飛山城跡や鉢形城跡といった川に挟まれた丘城では、園路による「地取」の体験が難しいことが示唆された。指向性は金山城跡・八王子城跡の山城では体感できた一方で、飛山城跡や鉢形城跡の丘城においては、園路が複数設置されているため、指向性がわかりにくくなっていることが判明した(図1)。縄張りを構成する諸要素の関係性は仮に空間として表現されていても、園路との関係が希薄である場合は、体感することが困難であることが示唆された。

6. 結論

城郭が機能していた段階は地選・地取と縄張りが有機的な関係を持っていた一方で、落城や破城によってこれらの城の機能は失われ、諸要素間の関係性も絶たれたと考えられる。現代に入り、史跡として保存・整備がされる際に地選・地取についてはあまり配慮されず、縄張りの4要素については要素相互の関係性が不明確となり、城跡の指向性に基づいた園路整備は意識的には行われていなかった。今後、中世城郭における史跡整備にあたっては、地理的条件の地選・地取と縄張りを構成する諸要素の、有機的な繋がりへの提示が求められるといえる(図2)。

参考文献

1) 文化庁文化財部記念物課(2005)「史跡等整備のてびきー保存と活用のためにー」I 総説編・資料編 同成社
2) 竹井英文(2018)「戦国の城の一生 つくる・壊す・蘇る」吉川弘文館 p16
3) 西股総生(2021)「パーツから考える戦国期城郭論」ワン・パブリッシング pp17-18

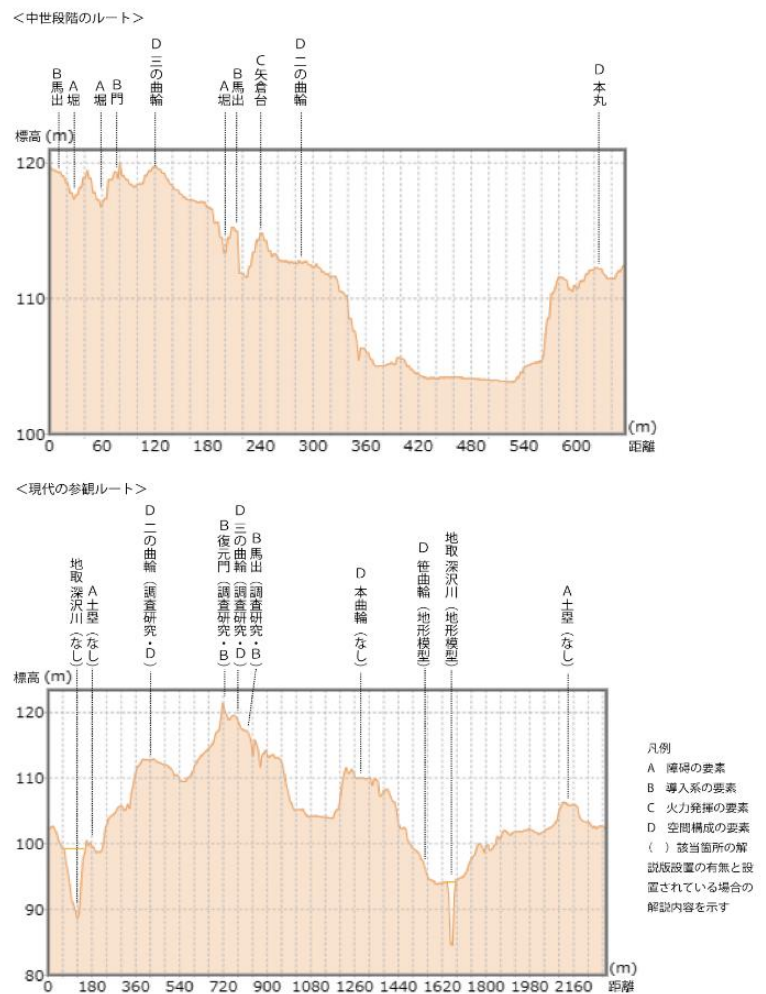


図1 中世の城内道と現代園路の比較(鉢形城跡)

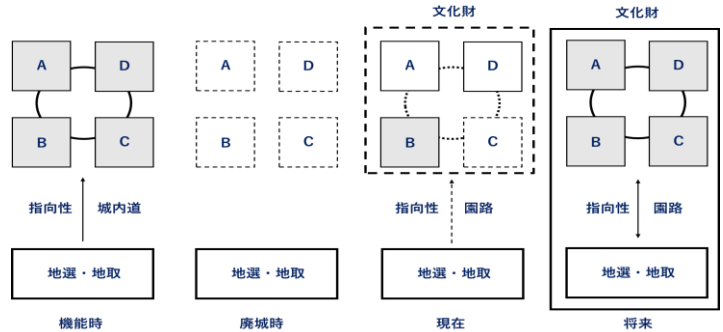


図2 中世城郭の変遷

Abstract : In recent years, the Agency for Cultural Affairs has been promoting the "utilization" of cultural properties, including Historic Sites. It is essential to introduce the value of cultural heritage. However, research on the utilization of "medieval castles in Japan" often emphasizes the aspect as a method of regional and community development. Therefore, this study aims to clarify the way of enhancement which leads to the understanding of medieval castles.

In this study, it is considered necessary to understand the structure and function of medieval castle fortifications from three perspectives: (1) the geographical and topographical locations of the site, (2) the directionality of the castle's territory, and (3) interrelationships among the four elements that make up the territory. As a result, while there was a strong relationship between the castles' elements during functioning, they lost their relations after being abandoned. In the modern era, when Historic Sites were preserved and maintained, little consideration was given to the geographical and topographical locations. The relationships among the four elements of the castle layout became unclear, and park paths needed to be consciously maintained based on the directionality of the castle site. In the future, when enhancing Historical Sites in medieval castles, it will be necessary to present a meaningful connection between the geographical conditions of the site and the various elements that make up the layout of the castle.